



内視鏡検査中の岡田氏



済生会西条病院


1911年、明治天皇が困窮者に医療の手が届かないことを憂いて「済生勅語」を発せられたことに基づき設立された済生会。昨年設立から100年を迎えた。済生会西条病院では設立時の使命を踏襲しながら、地域の生活困窮者に対する無料・低額医療や瀬戸内海独特の島しょ部巡回医療にも参加し続けている。また、市民の頼りとなる総合医療機関として、最新の医療機器や設備を導入している。独特な使命を持ちながら、地域貢献に邁進する済生会西条病院 院長 岡田眞一氏に地域医療の課題についてインタビューする。

西条市

# 済生会の 使命

おかだしんいち

社会福祉法人恩賜財団  
済生会西条病院院長 岡田眞一

A portrait of Dr. Masahiro Okada, a middle-aged man with glasses, wearing a white lab coat. He is gesturing with his hands as if speaking. The background is a warm, orange-toned wall.

### 岡田眞一（おかだ・しんいち）氏プロフィール

1954年 （昭和29年）生まれ  
1967年 八幡浜市立神山小学校 卒業  
1970年 八幡浜市立八代中学校 卒業  
1973年 愛媛県立八幡浜高等学校 卒業  
愛媛大学医学部 入学（一期生）  
1979年 愛媛大学医学部大学院 入学  
1983年 済生会西条病院（内科）勤務  
2007年 済生会西条病院 院長

## 地域に根ざした 医療を30年

「済生会といいますが、保健・医療・福祉のサービスを総合的に提供する日本では最大の医療福祉機関だと思います。今日はその済生会西条病院の事業活動について岡田眞一院長にお話を伺います。岡田院長は昭和29年のお生まれと聞きましたが、ご出身はどちらですか。」

【岡田】 八幡浜市です。昭和48年に八幡浜高校を出まして、新たに誕生したばかりの愛媛大学医学部に第1期生として入学しました。54年に卒業し、その後同大学の大学院に進みました。同時に医学部の第3内科学講座（消化器内科）に入局しました。私の専門は肝臓です。58年に大学院を修了後、半年か1年の約束でこの済生会西条病院に赴任しました。ところが、どう

いうわけですか今日までずっと30年間も勤務しています(笑)。

■先生が医師を目指されたのはどういふ動機からですか。

【岡田】当時の八幡浜高校では同級生の多くが医大を目指していましたので、私も同様に愛大医学部を受験したのですよ(笑)。だから医者になった同級生はけっこう多いですよ。

■あの頃は若い人たちの医学部志向が強かったのでしょうか。

【岡田】当時も医師不足が言われていましたから、特に医者が少ない地方ではそういう傾向があったと思います。

■私の記憶では、愛大医学部が設置された目的は県内の地域医療にたずさわる医師を育てるということだったと思います。

【岡田】はい、それが大きな目標でした。

■岡田先生は、まさにそれを実践なさってこられたわけでは

ね。

【岡田】そういうことになりま  
すかね(笑)

## 恵まれない人々に 手を差し伸べる

■社会福祉法人恩賜財団「済生会」について伺います。恩賜財団ということは、済生会は天皇から賜った慈善事業団体ということですか。

【岡田】そうです。明治天皇には教育勅語・軍人勅語(戊申証書)・済生勅語という3つのお言葉がありますが、済生会はそ

のうちの済生勅語に基づいて明治44年(1911)に恩賜財団として創設されました。今から102年前です。その目的は、病気になっても貧しさのために治療を受けられない人々のために施薬救療による済生(命を救う)の道を広めるということでした。

■では、済生会の医療は無料が基本だったのですか。

【岡田】そうです。戦前の済生会は国の医療福祉政策の一翼を担っていましたので、具体的な活動としては無料の診療活動を行う診療所や病院を建設しまし

た。最初は東京の診療所からはじまりましたが、やがてその活動は全国各地に広がっていきました。そして診療所や病院を建設する一方で、医療チームが僻地の無医地区や恵まれない人々の家々を回って巡回診療や巡回看護を行いました。さらに、例えば大正12年の関東大震災など災害の時には、現地に職員を派

## 3つのお言葉

●生活困窮者を**済**(すく)う

●医療で地域の**生**(いのち)を守る

●医療と福祉、**会**を挙げて切れ目のないサービス



遣して救済救護活動を行いました。このように生活困窮者や災害などで助けを求めている人々に、積極的に手を差し伸べる事業が済生会の目的でした。

## 愛媛には 3病院と2診療所

【岡田】戦後の済生会は経営する病院の収益を柱に、民間の社会福祉法人として再出発しました。しかし創立の精神はそのまま引き継ぎ、生活困窮者に対する無料・低額診療（無低診療）が済生会の根幹事業になっています。また災害時の救済救護活動も積極的に行っています。平成7年の阪神・淡路大震災の時には24時間体制で救護班を派遣しました。また海外の医療救護活動にも参加しています。

■職員数や病院数など、済生会の現在の概要を教えてください。



【岡田】済生会は東京に本部を置いて40都道府県に支部があり、全国には80の病院と16の診療所があります。そのほかに介護老人保健施設や児童福祉施設・障害者福祉施設などの施設が269あります。職員数は全国で約5万3千人です。年間の利用者（患者）数は約2千6百

万人です。

■全国に40支部ということは、支部のない県もあるわけですね。

【岡田】四国では支部があるのは愛媛県と香川県だけです。愛媛県には病院が西条市のほかに松山市と今治市にあり、診療所が内子町の小田と松山市の高

浜にあります。それらを統括しているのが愛媛県支部（松山）です。

■他県に比べて愛媛県には済生会の病院や施設は多いのですね。

【岡田】全国では病院が一つしかない支部もありますから、確かに多いほうだと思います。

## 最新設備を整備して 大きく飛躍

■では次に、地元の「済生会西条病院」についてお伺いします。今年が開業して55周年だそうですね。

【岡田】そうです。西条市内で赤松外科病院を開業されていた赤松寛という先生から病院の建物と施設の寄附を受けまして、昭和33年（1958）の4月にスタートしました。最初の病床数は元の赤松外科病院と同じ30

床でしたが、35年6月に鉄筋2階建て2棟を新築して60床に増床しました。さらに55年5月には110床に増床しました。その後は病院の建物が老朽化しましたので、61年10月に西条市大町の元の場所（現・弁財天公園）から現在のこの場所に新築移転しました。それからは癌や循環器疾患・脳血管疾患などに対する高度医療や2次救急医療に対応する最新設備を整備して病院は大きく飛躍しました。今では病床数は150床になっています。また平成5年には高齢者福祉対策の一環として老人保健施設「いしづち苑」を併設し、平成19年には回復期リハビリ病棟を開設しました。

■現在、西条病院には職員と医師は何人いらっしゃいますか。

【岡田】職員数は今年3月時点で344人（うち非常勤63人）で、そのうち医師は26人です。

■診療科目を教えてください。

【岡田】標榜科目は、左記の様になっていますが、小児科と産婦人科と耳鼻科がありません。当院は救急医療の2次病院として24時間体制で対応していますが、小児科・産婦人科がないのは救急に関しては非常にづらいところですよ。

## 济生会西条病院 診療科目

外科	脳神経外科	放射線科
内科	眼科	麻酔科
循環器科	泌尿器科	リハビリテーション科
整形外科	皮膚科	

## 最先端の医療機器を導入

■小児科や産婦人科は社会生活においてなくてはならない必須の診療科目だと思いますが、医師が少ないということでも全国的にも特に問題になっていますね。

【岡田】そうですね。それが愛媛県における医師不足のもので、すごく大きな問題なのです。

■今後、小児科や産婦人科の新たな設置は考えていますか。

【岡田】これは非常に難しいです。特に地域の医療現場では小児科や産婦人科という特殊な科だけが医師不足なのではなくて、内科や外科自体が医師不足なんです。だから、そこまで手が回っていないのが実情です。

■当院の施設関係で、他の病院にはない特色は何でしょうか。

【岡田】当院が持っている新しい医療機器としては「PET・CT」

「CT」、「放射線治療装置」、「血管造影システム」があります。これが当院の特色と言えます。「PET・CT」は癌の診断に際してこれを使って検査すると、全身の癌病巣の有無や転移などの状況が非常に解りやす



PET・CT



血管造影システム



放射線治療装置

いのです。放射線治療装置は癌細胞へ正確に放射線を照射して癌の治療を的確に行えます。また血管造影システムは心臓の冠状動脈や全身の血管、腹部・頭部の血管撮影で正確な診断が行えます。この3つは当院には絶対に必要な最先端の医療機器です。PET・CTと放射線治療装置は平成19年に、血管造影システムは23年に導入しました。良い医療をするには良い医療機器を持つことが必要になります。

## 生活困窮者支援 なでしこプラン

「済生会西条病院が取り組んでいる主な活動を教えてください。」

【岡田】先ほど言いましたように、済生会の根幹をなす無料・

低額診療と生活困窮者支援が西条病院でも最重要事業です。近年はホームレスや刑務所から出所した人たちのほかに、これまで無料・低額診療の対象にならなかった新しい形の生活困窮者が増えています。母子家庭やDV被害者、派遣切りにあつた失業者、在留外国人などです。これらの人たちに対して医療支援を行うのが「生活困窮者支援事業（なでしこプラン）」です。病院へ来られる人はいいんですけど、来られなくて困っている人を何とかしようというわけです。山間僻地に住んでいて足が悪いとか交通手段がない人も居られるはずですから、そこまで出向いて行きます。

「この「なでしこプラン」は、いつ始まったのですか。」

【岡田】平成22年の4月1日にスタートしました。

## 認知度が低い 無低診療など

「済生会病院の無料・低額診療や生活困窮者支援事業は一般にはよく知られているのですか。」

【岡田】そういった診療については、知らない人が多いと思います。民生児童委員に対するアンケートでは「知っている」と答えた人は27割しか居ませんでした。無料・低額診療などに対する認知度の低さが分かります。そこで一昨年の10月に当院の中に社会福祉課を立ち上げ、職員が限界集落と言われる山間の地区など、様々な場所に出かけて行き、民生委員の方や住民の皆さんに広報活動をしています。

「ところで、無料と低額の区別はどうやってつけるのですか。」

【岡田】これは、その時の患者さんの収入によって決まりがあるんです。

# 瀬戸内海離島の 巡回診療

「済生会には瀬戸内海を巡回診療する診療船がございませぬ。」

【岡田】はい。それは「済生丸」です。瀬戸内海の離島に住む人々への診療活動のために建造された船です。済生会本部は昭和36年に、創立50周年記念事業として無医村や無医地区の巡回診療を計画しました。そして山間僻地には巡回診療車を、また瀬戸内海の離島地域には巡回診療船を配置することになりました。それに基づいて「済生丸」は37年から就航しています。最初は本部の事業として行っていました。平成23年度からは岡山・広島・愛媛・香川の4支部合同の事業になりました。現在の済生丸は平成元年に就航した3世号が活躍していますが、老朽化が目立ってきましたので来



平成元年に就航した3世号の済生丸とともに



瀬戸内巡回診療

年の1月からは4世号が就航する予定になっています。  
「済生丸の大きさはどのくらいですか。」

【岡田】全長が33㍎、総トン数

166ト、浅瀬の多い島巡りです。座礁しないように水面から船底までの深さが2㍎という吃水の浅い船です。国産船です。

「済生丸にはどんな機器が装備されているのですか。」

【岡田】X線テレビ装置・超音波骨密度測定装置をはじめ、自動化学分析装置など各種臨床検査機器、内科・婦人科・眼科診療に必要な設備や機器が装備されています。ただ、最新のCT検査装置などは傷む恐れがあるので乗せられません。船に乗せる機器が制限されるのがネックです。

## 宇和海でも 活躍する済生丸

「西条病院は済生丸でどんな島々を巡回診療するのですか。」

【岡田】瀬戸内海で西条病院が受け持つ島は芸予諸島の中の魚島と高井神島ですが、魚島には診療所に医師が着任しましたので行かなくて良くなりました。基本的には医者の方の居る島には行

きません。ほかに当院としては、愛媛県の済生会3病院によって5月と7月に行われる宇和海の合同診療に参加しています。嘉島・竹ヶ島・戸島・日振島という4つの島が対象です。愛媛大学からも応援してもらっています。

「この済生丸は、まさに動く海の総合病院ですね。」

【岡田】そうです。大変に重い役割を担って運航しています。

「瀬戸内海には人が住んでいても医者がいない島はどのくらいあるのですか。」

【岡田】4県の済生会病院が分担して診療に赴いている島は、瀬戸内海と宇和海あわせて67島です。

「ずいぶん多いですねえ。それらの島の救急医療にも済生丸は対応するのですか。」

【岡田】済生丸は常時動けるわけではありませんので、島の救



急医療までは難しいです。でも災害の時には陸から行けない部分で済生丸の役割が大きくなります。例えば阪神・淡路大震災の時には物資の輸送や診療活動の拠点として大いに貢献しました。済生丸の運航費用は国、それに瀬戸内4県からも出ている

のですが実際には足りないですね。

## 医療交流

「そのほかには、どんな活動をなさっていますか。」

【岡田】ほかに老人保健施設や

介護支援センターの運営、訪問診療や訪問看護、居宅介護支援事業、生活習慣病健診や健康教育など、地域の医療福祉活動に力を入れています。それから、国際的視野に立った国際協力もしています。ちょうど西条市が中国の保定市と友好関係を結んでいますので、当院は保定市の病院との医療交流によって向この医師や看護師などの受け入れを10年以上も前から行っています。

「西条地区では一般の病院との交流はなさっていますか。」

【岡田】それは医師会の中でしています。私も医師会の理事です。西条医師会の会議にも出ます。西条医師会の中には色々な会がありますが、例えば周桑病院・西条中央病院・村上記念病院と当院の4病院で体験学習会を3ヶ月に1回持ち回りで行っています。それから、済生会病



院の職員同士の全国交流も職種ごとに行っています、院長は院長会、事務長は事務長会、看護師は看護師会という具合にです。

## 医師不足の現実の中で

「医者という職業に携わっていて最も喜びを感じるのは、どんな時ですか。」

【岡田】やっぱり、患者さんの病状が良くなる時の喜び顔ですね。その顔を見る時が一番嬉しいです。それが医者という職業の一番の魅力だと思います。

「それにしても、医者というのは大変苦勞の多い職業だと思います。私の友人にも医者がいいますが、「夜でもいつ呼び出されるか分からないので気が休まらない」と言っていました。

【岡田】そうですね、私もけっこう呼びだされますよ（笑）。

私も当直をしますし、救急患者が担ぎ込まれると出て来ることもあります。

「院長先生も自ら当直なさるのですか。」

【岡田】はい。そのぐらい医師が不足しているんです。

「医師不足の状況の中でも、最近では女医さんの数が増えているそうですね。」

【岡田】そうですね。愛媛大学でも学生の4割ぐらいが女性だと思います。私が入学した時はたった3人だったですけどね。

「因みに、この西条病院には女医さんは何人いらっしゃいますか。」

【岡田】眼科と皮膚科、それに内科と外科に1人ずつ、計4人しか居ません。

## 地域医療を守る

「それでは、今後の先生の抱負をお聞かせください。」

【岡田】医師不足など課題は多いですが、その中でも何とか地域医療を守っていくのが私の一番の使命だと思っています。とにかく地域医療を守るために頑張ろうというのが今の心境です。それから、100床の特別養護老人ホームをこの病院の東側に作る予定にしています。これが出来ると治療が終っても在宅に戻れない高齢者にも対応しやすくなります。それを来年の春ぐらいまでに完成させたいと思っています。そして当院も築後26年経ってかなり老朽化してきましたので、4年から5年後には建て替えたいと思っています。

「それではお話の締め括りに座右の銘をご披露ください。」



【岡田】私の座右の銘は、やっぱり済生会の「済生」ですね。長年ずっと命を救う仕事をしてきましたので、やっぱり「済生」という言葉が一番いいかなと思います。

「ご多忙中に長い時間を割いていただき有難うございました。」

インタビュアー：弘岡寧彦